

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12400

研究課題名(和文) 日本の島嶼部における複合的観光システムのレジリエンスを高める要因の検討

研究課題名(英文) Investigating factors that enhance the resilience of complex tourism systems on Japanese islands

研究代表者

フンク カロリン (FUNCK, Carolin)

広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授

研究者番号：70271400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本島嶼部を複合的システムとして捉え、観光の発展に伴って直面する課題を分析し、島のレジリエンスを高める要因を検討した。国際学術シンポジウムにおいて島観光のレジリエンスの検討を進めた上、国内の島の調査を社会、文化、自然環境の視点から進めた。その結果、太陽、海、砂の観光要因が弱い日本の島は逆にユニークさと多様性を有し、パンデミック後の多様で持続可能な島嶼観光のモデルとなり得る可能性を確認できた。移住者、関係人口と住民が関わるアート・ツーリズム、動物が人間と生活空間を共有する島への観光、チョークポイント概念を通して文化や価値観の多様性に基づいた観光の可能性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本島嶼部は、観光の発展に伴って直面する課題を分析した。特に、島のレジリエンスを高める要因を検討した。国際学術シンポジウムを開催し、世界各国の事例から島観光におけるレジリエンスの検討を進めた。国内の島の調査を社会、文化、自然環境の視点から進めた。その結果、太陽、海、砂の観光要因が弱い日本の島は逆にユニークさと多様性を有し、パンデミック後の多様で持続可能な島嶼観光のモデルとなり得る可能性を確認できた。移住者、関係人口と住民が関わるアート・ツーリズム、野生ではないがペットでもない動物が人間と生活空間を共有する島への観光、文化や価値観の多様性に基づいた観光の可能性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The study considered Japanese islands as a complex system and analysed the challenges faced in the development of tourism. It then examined the factors that enhance island resilience. An international academic symposium was held to examine resilience in island tourism, and a survey of islands in Japan was conducted from the perspectives of society, culture and the natural environment. As a result, it was confirmed that Japanese islands with weak tourism factors of sun, sea and sand, on the contrary, have uniqueness and diversity and could be a model for diverse and sustainable island tourism after the pandemic. The potential for tourism was identified for art tourism involving migrants, relevant populations and residents, tourism to islands where non-wild but non-pet animals share living space with humans, and the choke point concept based on cultural and value diversity.

研究分野：人文地理学

キーワード：島観光 レジリエンス 複合的観光システム 日本

1. 研究開始当初の背景

日本の島嶼部の一部の地域では続く外国人旅行者の急増と観光情報のデジタル化に伴う観光対象地域の拡大及び観光形態の多様化を受け観光地化が進んでいる。一方、人口流出が社会と経済の基盤を揺るがし、その上気候変動による天災の深刻化と過剰観光がもたらす観光資源の劣化、そして観光者の目指しと需要に適用するための文化的変容の必要性に直面し、複数の次元において島のレジリエンスが問われている。ある地域のレジリエンスとはこのような変容に適切に対応することに留まらず、変容を抱えて地域をよりよい方向に導く能力として定義できる。本研究開始当初の背景として、外国人旅行者が急増し、観光形態が多様化する中で人口流出が続き、気候変動の影響を強く受けている日本の島嶼部島のレジリエンスを高める要因を検討する必要が生じたといえる。

また、本研究の学術背景には、「複合的システム(Complex system)」と「レジリエンス」(Resilience)という二つの概念が関連し、観光研究分野においてその2つの概念を巡る学術的な議論が続いていた。例えば、島については Cheer et. al. (2017)が *islandscape* (ランドスケープにちなんでのアイランドスケープ) という概念を導入した。アイランドスケープは島の物理的・文化的な陸と海の景観を指し、自然と文化の間に明確な境界線を引かない、複合的システムに近い概念である。また、「レジリエンス」に関連する研究は多くみられるが、持続可能性との区別が明確に定義されていないことが多い。持続可能な観光発展は観光が自然環境に及ぼす影響の他に、地域社会や文化への影響や、経済的な利益の問題も対象とし、その3つの次元において地域の資源や安定を守ることを目的とする。それに対してレジリエンスは観光のような複合的システムに起こる複雑で予想できない変容に対し適切に対応し、地域をよりよい発展方向に導くために動的で自主管理能力の高い地域システムを目指している。Lew et.al. (2016)は地域が直面する課題や変容に対し持続可能性のコンセプトが適切である場合と、レジリエンスの視点から考えた方がいい場合があると指摘している。そこで本研究は日本の島嶼部における観光システムを分析し、「持続可能性とレジリエンスが共に強い地域を育てるにはなにが必要か？」を検討することとした。

2. 研究の目的

本研究は、第1に、日本島嶼部の環境・社会・文化を複合的システムとして捉え、観光の発展に伴って直面する課題を分析する。その上で第2に、島観光地で活動するアクターとその認識、島内外の関係とネットワーク、そしてシステムの管理能力に注目し、島のレジリエンスを高める要因を検討することを目的としている。

3. 研究の方法

研究代表者フクは観光産業、人口、移住など、観光による社会の変容に注目した。事例地域として広島県尾道市瀬戸田地区(生口島)を選択し、複数の研究方法を活かし、高級ホテル新設と商店街の活性化が町全体の観光に与える影響について検討した。アクション・リサーチとして「しおまちワークショップ」に2021年に1年間に渡って学生スタッフと共に参加し、観光とまちづくりを結びつける活動に関わった。また、学生研究スタッフが「おてつたび」のプロジェクトに参加し、受け入れ側と参加者のアンケートを実施した。2022年度は観光授業者の半構造化インタビューと観光者を対象にしたアンケート調査を実施した。

研究分担者笛吹は観光資源、観光による自然の変容に注目した。自然を活かした観光形態としてグランピングを取り上げ、関する学術論文のシステムティックレビュー(日本語論文・英語論文)を行うと同時に、広島県周辺のグランピング施設を中心にリストを作成した。主に広島県に立地するグランピング施設にインタビューを対面またはオンラインで以下のように実施した：

2021年8月21日(伯方島訪問・聞き取り調査実施)

2021年9月27日(伯方島のグランピング施設・オンラインでの聞き取り)

2021年11月17日(百島訪問・聞き取り調査実施)

2021年12月16日(百島のグランピング施設・オンラインでの聞き取り)

また、近年、SNSの影響によって、動物が観光資源となる事例が島嶼部において報告されているため、動物を対象とした観光についても調査を行った。外来種として指定されたウサギやノラネコなど、保護の対象にない動物が観光対象となっていることから、観光客のニーズにどのように対応するか、管理のあり方が問われる。本調査では、分担者笛吹が2016年より継続して調査を行なっている大久野島(広島県)を主な調査地として、研究を進めると同時に、レジリエンスのフレームワークに基づいた動物観光を提案するため、コロナ禍における観光地の動物への影響を調査した。また、最終年度は、2022年8月30日にネコ島として有名になった宮城県石巻市の田代島を視察し、ウサギ観光との類似性、相違性を検討するための材料とした。

研究分担者張は観光地イメージと観光による文化の変容に注目した。2020-21年度には、コロ

ナ禍でフィールド調査ができず、主に作品・文献調査を通じて、大衆文化コンテンツが島観光におけるディスティネーションイメージの形成にどのような役割を果たすかについて、主に文献調査・メディア調査の手法で明らかにした。対象としたのは、スタジオジブリのアニメーション作品と島を描いた漫画作品である。

2022年度には、複数の島と陸地から成る面として捉え、島観光に新たな認識のフレームワークを提供する試みを、チョークポイント概念の提示の提示と4回の現地調査に基づいて行った。既存に軍事・物流上に重要な水路を意味するチョークポイント概念を、歴史・文化が集まる場所さらに de-militarization に転換することで、より地域の観光を理解することができるようになると提示した。具体的な現地調査の場所として、日本を代表するチョークポイントである対馬海峡を選び、空間上の4島(対馬、壱岐、鷹島、五島)の調査を行った。調査方法は、地域全体の歴史と文化を俯瞰するための文献調査、当地域を描いた大衆文化作品の分析、どの歴史が取捨選択されまた観光資源として作られているかを把握するための、観察に基づいた資源調査、観光開発に対する意識を把握するための行政への聞き取りを行った。

2022年5月20日～24日(長崎県対馬市)

2022年12月2日～5日(長崎県壱岐市)

2023年1月26日～30日(長崎県松浦市)

2023年2月17日～20日(長崎県五島市)

研究分担者渠はアートと観光の文化的側面に注目した。小規模な芸術祭が実施されている大崎下島では、自然観察と、4つの小規模地域アートフェスティバルにおける参加型アクションリサーチを行いました。著者らが制作した3つの57分のドキュメンタリー、フェスティバル主催者、アーティスト、ボランティア、政府関係者、長期滞在者、創造的移住者、観光客などのキーステークホルダーから収集した24の半構造化および23の非構造化インタビュー、および2018年から2022年までに実践されたアクションリサーチを支える参加観察から収集されたデータを使用し、論文の執筆を進めた。

このような小規模と異なり、直島、豊島、犬島は国際規模で開催される瀬戸内国際芸術祭と長期的な投資活動に基づくアートサイト開発により国際アート・ツーリズムの対象地となっている。収束的連続的混合法に従って調査を実施した。定性的手法としては、参加型観察に基づいたグラウンデッド・セオリーを用いた半構造化インタビューを、アート主催者、アーティスト、政府関係者、観光関係者などを対象に目的別サンプリングで行った。定量的データ収集は、2019年から2022年にかけて直島、豊島、犬島を訪れた観光客を対象とした公式アンケート調査(27000サンプル)のデータを分析している。

調査日程:

大崎下島:2021年5月1日～7日、7月27日～30日、10月1日～5日、2022年4月16日、5月1日～5日、14日、10月1日

直島、豊島、犬島:2022年7月10日～15日

2022年度はまとめる研究として2つ実施した。1つは、研究代表者、研究分担者3名と大学院生1名で東アジアの島嶼研究の広範な文献レビューを行い、SSCI雑誌に投稿した。この研究では、島嶼研究の世界的なトレンドを背景に、東アジアの地理学的、人類学的、民族学的、観光学的視点から島嶼研究を評価した。中国本土、韓国、日本、台湾の島観光に焦点を当て、それぞれの基本データを使用し、英語と現地語の文献をレビューした。これらの東アジア四地域における島嶼の捉え方と研究における位置づけを分析し、次の科学研究費プロジェクトに繋げた。

2020-2021年度はコロナ禍でフィールド調査ができなかったため、2022年3月に研究代表者と研究分担者渠、研究分担者渠が長崎県五島市で合同調査を行った。世界遺産、国立公園、日本ジオパーク、日本遺産の登録が重なっている本地域におけるステークホルダーの協力関係に注目し、市担当部局や観光に関わるNPO、観光事業に活用する移住者に半構造化インタビューを行った。この調査も、次の科学研究費プロジェクトにおいて連続的に実施する予定である。

4. 研究成果

国際学術シンポジウムの開催と学術論文の投稿:

研究のフレームワークを設定するために、2020年11月28日に地理科学学会の第37回シンポジウムとして Tourism Transformations: Resilient Islands and Revitalized Communities (観光の変容:回復力のある島と活性化されたコミュニティ)のシンポジウムをオンラインと対面のハイブリッド型で開催した。発表8件は国内・海外の若手研究者と島の観光について研究業績の多い研究者により行われた。シンポジウムにおいて、観光地理学で最も重要な学術雑誌である Tourism Geographies の編集者2名がオーガナイザーとコメンテーターを務めた。このシンポジウムを通じて、観光による島の変容を始め、レジリエンスとコロナ禍の関係についても検討でき、今後の研究の基盤を固めた。シンポジウムの成果は学術雑誌「地理科学」76-2号、76-3号において概要説明と8つの学術論文として発表された。

日本の島から新たな島観光の可能性を検討する方向を定めた(研究代表者フック)

研究代表者フックは2022年3月に和歌山大学国際観光学研究センターが開催した国際ワーク

ショップにおいて「Island tourism in Japan: can the diversity of islands create diversity in tourism?」というタイトルでキーノートスピーチを行った。島は、自然や文化的要素のユニークな組み合わせによって、世界の観光の中で最も魅力的なデスティネーションの一つとなっている。しかし、その焦点は主に太陽、海、砂の観光の可能性に当てられている。一方、日本の島嶼部に関する研究は、従来、島嶼部の独自性や嗜好性の低い地域が抱える課題に焦点をあててきた。近年では、アートツーリズム、サイクリングツーリズム、エコツーリズムなど、島嶼部に特化した観光形態が登場している。成功事例を見ると、島外のアクターの関与が決定的な要因のように見えるが、よく見ると、島内外の様々なアクターの間には緻密で多面的なネットワークがあることがわかる。パンデミックは、こうした新たな展開にとって特別な脅威であると同時に、マイクロツーリズムの理想的な目的地としての島々に新たなチャンスをもたらした。太陽、海、砂の観光要因が弱い日本の島は逆にユニークさと多様性を有し、パンデミック後の多様で持続可能な島嶼観光のモデルとなり得る可能性を指摘した。

自然観光のレジリエンスを高める要因を検討した（研究分担者笛吹）

島に生息するウサギや野良ネコは、観光客にとって癒しの存在となり、観光客が増加する一方で、観光客の餌やりや給餌によって増えた動物の環境への影響が懸念される。高齢化や人手不足が深刻な島嶼部において、観光客のニーズにどのように対応していくかが今後の課題となっている。大久野島においては、2022年度より「大久野島未来づくりサポーター」制度が開始され、ボランティアベースでウサギの管理や観光客への啓発を行なっている。今後は、こうした制度の効果について継続して調査を進める予定である。

大衆文化コンテンツが観光の動機になるプロセスと島のチョークポイントとしての役割を検討した（研究分担者張）

アニメや漫画など大衆文化コンテンツは、既往の観光研究では、有機的（organic）、すなわち非商業的かつ非マーケティングな情報としてディスティネーションイメージを作ると議論されてきた。ただ、日本の場合、地域が積極的に制作前・後にコンテンツの制作側と関わることによって、大衆文化コンテンツは、誘導的（induced）イメージを作る情報として機能することになる。本研究では、こうした有機的ディスティネーションイメージの情報が誘導的と混ざり合う、または転換する過程について主に作品・文献調査から明らかにした。まず、観光学の既往研究のレビューから、伝統的にマスメディアが有機的イメージ形成のソースになることを整理した。ただ、既往研究ではマスメディアと地域との協業に着目していないことが限界として指摘できる。それから、日本の大衆文化コンテンツ、特に島を描いているスタジオジブリの作品（もののけ姫、屋久島）漫画（ばらかもん、福江島）の作品の中に描かれた島の表象と、作品に関連する観光案内を目的とする派生作品、地域との協業活動について分析した。上記の作品群は、最初から観光者にアピールする目的として作られたものではなく、そういう意味で最初の制作においては有機的イメージのソースとして消費される。ただ、作品の人気とともに、地域では作品を誘導的イメージのソースとして利用することになる。すなわち、大衆文化コンテンツが観光の動機になるのは、第1段階として、有機的イメージに誘発される観光、第2段階として、誘導的イメージに影響される観光、さらに誘導的イメージが第1段階のイメージを強化することによって行われる（再）観光というフェーズになることが明らかになった。

島のチョークポイントとしての役割を検討した結果、以下の2点が挙げられる。第一に、島観光におけるチョークポイントという考え方の有効性である。チョークポイント概念を通して、文化や価値観の多様性に基づいた、さらに既存の島観光やボーダー観光の捉え方である線にとらわれない柔軟な場所への考え方が可能になることが明らかになった。第二に大衆文化コンテンツの役割である。コンテンツは、トップダウン形式の遺産制度と異なり、ボトムアップの形態で地域の連携をできるようにする役割をする。対馬海峡の地域においても、政府中心の日本遺産のストーリーに対しては温度差があったものの、当地域を扱った漫画・アニメである『アンゴルモア元寇合戦記』の活用においては、地域発の観光振興と連携による観光開発がボトムアップ形態で行われていることが明らかになった。

アートツーリズムの異なった形態が地域に与える影響を検討した（研究分担者渠）

地域の独自性が強く、規模が小さいアートフェスティバルと、国際的に有名で集客力の高い瀬戸内国際芸術祭を比較することにより、アートツーリズムが地域に与える影響を検討した。大崎下島では地域の芸術祭起業家の個人行動と社会的に関与するクリエイティブネットワークとの複雑な相互作用を明らかにした。過疎地域や離島における芸術祭は、人的リソースを確保するために一般的に「関係人口」と呼ばれる外部支援者に依存することが多く、資源や知識の流れを維持するために、外部支援者のサポートに頼ることが多い。地域のフェスティバルは、社会的イノベーションを地方にもたらすことができるが、地域の課題を解消し、社会的に組み込まれた活動を統合する必要があることが明らかになった。

一方、直島、豊島、犬島は瀬戸内国際芸術祭の開催島である。日本における社会的に関与したアート、芸術的実践、フェスティバル観光、クリエイティブな場づくり活動の力が、国際的に注目され、地方や周辺地域の再生に対する影響力が高まっている。これらのプロジェクトは、人文科学（芸術研究）と社会科学（地理学、観光学、農村研究）を包括するいくつかの多分野の研究課題を提起している。今後もアートツーリズムと農村再生の仕組みに関する研究を継続す

る予定である。

東アジアの島嶼研究の広範な文献レビューを行い、日本国内の島観光の研究を広域の研究に位置づけた（全員）

東アジアの地理学的、人類学的、民族学的、観光的視点から島嶼研究を評価した。特に中国本土、韓国、日本、台湾の島観光に焦点を当て、島の位置づけと社会的意義、島を対象にした政策や観光目的地としての役割に関する研究を整理し、4つの地域の共通点と相違点を分析した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Qu Meng, Funck Carolin, Usui Rie, Jang Kyungjae, He Yachen, Lew Alan A,	4. 巻 18
2. 論文標題 Island studies and socio-economic development policies in East Asia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Island Studies Journal	6. 最初と最後の頁 226 ~ 247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24043/isj.395	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Qu Meng, McCormick A. D., Funck Carolin	4. 巻 30
2. 論文標題 Community resourcefulness and partnerships in rural tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Sustainable Tourism	6. 最初と最後の頁 2371 ~ 2390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09669582.2020.1849233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Qu Meng, Zollet Simona	4. 巻 97
2. 論文標題 Neo-endogenous revitalisation: Enhancing community resilience through art tourism and rural entrepreneurship	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Rural Studies	6. 最初と最後の頁 105 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jrurstud.2022.11.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Funck, Carolin	4. 巻 -
2. 論文標題 Can the diversity of islands create diversity in tourism?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 CTR International Conference Report 2022	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Joseph M Cheer, Ricardo Nicolas Prozano, Meng Qu, AD McCormick	4. 巻 -
2. 論文標題 Tourism in the rural periphery: Revitalization and community resilience in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Handbook of Tourism Impacts: Social and Environmental Perspectives	6. 最初と最後の頁 295 ~ 311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4337/9781800377684.00033	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Funck, C., Usui, R., Lew, A.A., Cheer, J.M.	4. 巻 76
2. 論文標題 Tourism Transformations: Resilient Islands and Revitalized Communities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域科学	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20630/chirikagaku.76.2_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Rie Usui, Carolin Funck and Ifeoluwa B. Adewumi	4. 巻 13
2. 論文標題 Tourism and Counterurbanization in a Low-Amenity Peripheral Island: A Longitudinal Study at Yakushima Island in Kagoshima, Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su13168822	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Qu Meng, Funck Carolin	4. 巻 -
2. 論文標題 Rural Art Festival Revitalizing a Japanese Declining Tourism Island	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nancy Duxbury (Ed.), Cultural Sustainability, Tourism and Development: (Re)articulations in Tourism Contexts	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9780367201777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Prince, S., Qu, M., & Zollet, S.	4. 巻 16
2. 論文標題 The making of art islands: A comparative analysis of translocal assemblages of contemporary art and tourism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Island Studies Journal	6. 最初と最後の頁 235-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24043/isj.175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 McCormick, A. D., & Qu, M.	4. 巻 76
2. 論文標題 Community Resourcefulness Under Pandemic Pressure: A Japanese Island's Creative Network	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理科学	6. 最初と最後の頁 74-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20630/chirikagaku.76.2_74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Usui, R.	4. 巻 76
2. 論文標題 Does the path toward resilience go beyond conservation at Okunoshima Island?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理科学	6. 最初と最後の頁 131-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20630/chirikagaku.76.3_131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 The Mongol invasions of Japan and Tsushima tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan Edited by Takayoshi Yamamura and Philip Seaton, 2022	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Satsuma's invasion of the Ryukyu Kingdom in 1609 and Okinawa tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan Edited by Takayoshi Yamamura and Philip Seaton, 2022	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Qu, M., Miyagawa Coulton, T., Funck, C.	4. 巻 12
2. 論文標題 Gaps and Limitations - Contrasting Attitudes to Newcomers and Their Role in Japanese Islands	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Usui, R., Sheeran, L.K., Asbury, A.M., & Blackson, M.	4. 巻 2021
2. 論文標題 Impacts of the COVID-19 pandemic on mammals at tourism destinations: a systematic review	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mammal Review	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/mam.12245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Funck, Carolin
2. 発表標題 Stronger together? Cooperation between tourism developers, municipal government and local stakeholders in the rejuvenation of a Seto Inland Sea island (Japan)
3. 学会等名 International Geographical Congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Funck, Carolin
2. 発表標題 Concepts of Island Revitalization Reflected in Art Tourism
3. 学会等名 Art in the Countryside: Symposium on Art and Regional Revitalization (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qu, Meng
2. 発表標題 Neo-endogenous Revitalisation: Increasing Community Resilience through Socially Engaged Art and Creative In-migrant Micro-entrepreneurship
3. 学会等名 Art in the Countryside: Symposium on Art and Regional Revitalization (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qu, Meng
2. 発表標題 From Island Arts to the Art Islandness
3. 学会等名 The 16th International Conference on Small Island Cultures (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qu, Meng
2. 発表標題 Revitalization Engaged Creative Tourism Micro-entrepreneurship Community Enhancement
3. 学会等名 Creative tourism regenerative development and destination resilience, Miguel Island Azores, Portugal (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qu, Meng
2. 発表標題 Island studies in East Asia and Revitalization Engaged Art Island Tourism in Japan
3. 学会等名 Scottish Islands Futures 2050 & Beyond Workshop 2 'Speaking of the Future - the Role of Language, Culture and Heritage' (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qu, Meng
2. 発表標題 Revitalization Engaged Art Island Tourism Art Islandness, Creative Micro-entrepreneurship & Neo-endogenous Revitalization
3. 学会等名 International Island Forum, Mokpo, Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyungjae, Jang
2. 発表標題 Battleships, Girls and Contents Tourism: Multivocality in the game Fleet Collection
3. 学会等名 American Anthropology Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張, 慶在
2. 発表標題 チヨークポイント・Ghost of Tsushimaから考える対馬観光
3. 学会等名 CMATS×CATS×科研PJ共同研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Qu Meng
2. 発表標題 Partnerships for Revitalization: Small Businesses in an Island Art Festival
3. 学会等名 International Geographical Congress (IGU) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Qu Meng
2. 発表標題 The role of creative in-migrants in the revitalization of Japan's shrinking island communities
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Qu Meng
2. 発表標題 The neo-endogenous role of micro-entrepreneurship in the context of art festival tourism development in peripheral islands
3. 学会等名 European Regional Science Association (ERSA) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Funck, Carolin
2. 発表標題 Island tourism in Japan: can the diversity of islands create diversity in tourism?
3. 学会等名 和歌山大学CTRInternational Tourism Research Salon (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Usui, R., Sheeran, L.K., Asbury, A., Blackson, M.
2. 発表標題 Impacts of the COVID-19 outbreak on mammals in leisure environments: a systematic review
3. 学会等名 ASAB Virtual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Usui, R.
2. 発表標題 Island Tourism Resilience in the Case of Wildlife Tourism Destinations: Does Resilience Go beyond Conservation?
3. 学会等名 2020年度地理科学学会第37回シンポジウム Tourism Transformation: Resilient Islands and Revitalized Communities (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Funck, C.
2. 発表標題 Introduction
3. 学会等名 2020年度地理科学学会第37回シンポジウム Tourism Transformation: Resilient Islands and Revitalized Communities (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 張 慶在
2. 発表標題 軍港都市の記憶の継承と再生産ー断絶、連続から平和へー
3. 学会等名 南北相互理解と文化交流シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	張 慶在 (JANG Kyungjae) (50782140)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・准教授 (15401)	
研究分担者	笛吹 理絵 (USUI Rie) (50850153)	比治山大学・現代文化学部・講師 (35410)	広島大学・人間社会科学研究科・助教から変更
研究分担者	渠 蒙 (QU Meng) (40910295)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・助教 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 2020年度地理科学学会第37回シンポジウム Tourism Transformation: Resilient Islands and Revitalized Communities	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------